

# 天瀬温泉地区

(大分県日田市)

計 画 期 間 平成 19 年度 ~ 23 年度

面 積 39ha

交付対象事業費 719 百万円

市人口 72,814 人 (地区内人口 1,202 人 )

**ポイント** くつろぎとゆとり、もてなしの心が活かされた魅力ある温泉街づくり。

**地区概要** 観光名所である桜滝などの自然を活かしたポケットパークや温泉の町をイメージさせる足湯を配置し、回遊性を高め温泉街の賑わいを再生する。

**目 標** 自然環境や地域資源を活かし、癒される温泉保養拠点の整備を行い、入込客数の増加を図る。

**指 標** 道路の美化化や街路灯の整備などのハード整備と併せ、地元まちづくり団体の活動活性化 (地区全体が一体となった、もてなしの活動) をはかり、交流人口 (入込客数) の増加を指標とした。

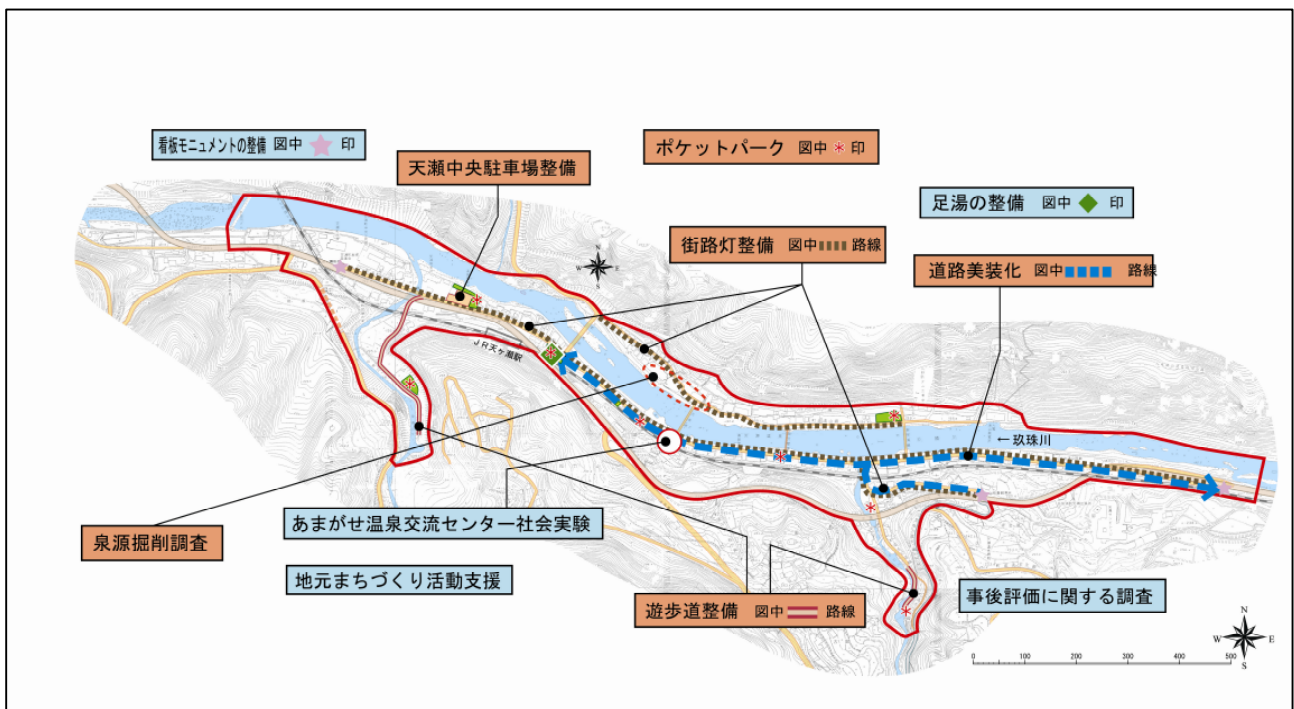
宿泊客数	146,737 人 (H17)	161,000 人 (H23)
日帰客数	46,300 人 (H17)	51,000 人 (H23)
空店舗率	30% (H17)	20% (H23)

**事業内容** 基幹事業 ( 638 百万円 )

駐車場 ( 1,300 m<sup>2</sup> )、ポケットパーク ( 8 カ所 940 m<sup>2</sup> )  
道路美化化 ( 幅員 5.3m ~ 延長 1,719m、 )、街路灯整備 ( 108 基 )  
遊歩道整備 ( 2 箇所 ~ 延長 335m・100m )

提案事業 ( 81 百万円 )

足湯の整備 ( 1 箇所 )、温泉交流センター社会実験、  
看板モニュメント整備、泉源掘削調査、地元まちづくり団体活動支援



## 地区の現況と課題

天ヶ瀬温泉は1,300年の歴史を持つ温泉地で別府・湯布院にならび豊後三湯と呼ばれていた。高度成長期には大変な賑わいを見せたが、時代の流れとともに観光客も減少の一途を辿っている。今後、地域資源を活かしたハード整備と地域住民が一体となったまちづくり（もてなし態勢）の強化が課題である。

## 基幹事業の特徴

### 天瀬中央駐車場

来客者や観光資源に配慮した立地条件。

### 天瀬中央ポケットパーク 外7

回遊性を高めるための一休みポイント。

### 道路の美化化・街路灯の整備（市道町内線外）

玉砂利舗装、まちの景観に配慮した灯具。

### 遊歩道整備

観光資源である各滝へのアクセス道。

## 提案事業の特徴

### 足湯の設置

ポケットパークに足湯を整備し、回遊性の向上と、湯煙効果による温泉地の情緒を醸し出す。

### 看板モニユメントの整備

幹線道路（国道210号線等）から天ヶ瀬温泉街の入口へ看板モニユメントを整備し、温泉地である雰囲気醸し出すとともに、自動車等の誘導を促進する。

### 天瀬温泉交流センター社会実験『湯来』

空店舗を利用した、地場農産物等の即売や、回遊性を向上させるための催し等の社会実験。

### 地元まちづくり活動支援

地元まちづくり団体への専門家の派遣や自主活動に対する支援。  
観光コンサルタント（JTB）の導入。

0

## 計画策定プロセス

### 地元まちづくり団体との協議

平成16年9月に旧天瀬町において、天瀬温泉のまちづくりについて検討するため、町内の観光、農林業、小売店等の若手メンバーを中心に「天瀬温泉総合整備事業基本計画策定委員会」が設立され、翌年2月に計画書が策定された。市町村合併を経て、平成17年6月から計画推進に向けた代表者会が発足し（後に「あまがせ温泉まちづくり協議会」へと名称を変更）約50回の会合を行い計画策定に至った。

### 他のまちづくり団体との交流

都市再生整備計画の策定にあたり、地元まちづくり協議会の提案事業への取組みについて、既に、まちづくり交付金事業に取り組んでいる「川棚温泉まちづくり協議会」との懇談や現地視察等の活動を行った。



天ヶ瀬温泉街



名勝桜滝



イルミネーションイベント



観光コンサルタント（JTB）とのワークショップ



着工前



竣工

看板モニユメントの整備



社会実験 天瀬温泉交流センター『湯来』